

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
自ら学び、自ら行動する、心豊かな岩松っ子の育成	① 地域に開かれた信頼される学校運営 ② 確かな学力の定着 ③ 豊かな心と健やかな体の育成

達成度 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

3 目標・評価

① 地域に開かれた信頼される学校運営

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校教育目標	学校教育目標、重点目標が周知されたか。	・教職員、保護者、学校評議員、地域への周知を図り、認知度90%以上をめざす。	・教職員は職員会議で、学校評議員は学校評議員会で、保護者・地域の方々は育友会総会、HP、学校便り等で説明やお知らせをする。	B	・学校評価アンケート結果から。「学校は学校便りやHP、育友会総会などを通して、学校教育目標や教育方針を伝えていると思いますか。」の問いに対して、思う(37人 50%) 大体思う(33人 44%)であった。これを合わせると、94%であり、ほぼ達成していると考えられる。・学校評価アンケートの結果からは、「思う」と「だいたい思う」を合わせて95%だが、「思う」の割合をもっと向上させなければならない。	・次年度の学校便りは、質と量の両面において改良したい。読んでもらえる工夫とともに学校からの発信を意識した内容やレイアウトにしたい。 ・HPIについてはさらに充実を図りたい。ICT支援員の力を活用しながら発信力を高めたい。
	○危機管理	児童の安全・安心が確立できたか。	・児童の事故発生を0にする。 ・学校安全計画を基に安全教育を進め、安全指導を確実に実践していく。 ・安全・安心に配慮した教育活動が実践されていると感じる保護者を割合を85%以上にする。	・実態に即した緊急時対応マニュアルに更新する。 ・実効性のある避難訓練を実施する。 ・毎月の安全点検を確実に実施する。	A	学校の安全教育・安全対策に9割以上の保護者が理解をしてくれた。また、児童の安全に対する意識も9割以上と高い結果が出た。避難訓練は、全て計画通りに実施できた。避難誘導や移動の仕方などを職員や児童は理解できていて、順調だった。校内への不審者侵入を想定した避難訓練と、登下校中の不審者による声かけを想定し実施できた。	学校の取り組みは、保護者や児童に理解を得られている。今後は事前に児童に知らせずに避難訓練を行い、行動の理解や定着を図りたい。
	○開かれた学校づくり1	学校情報を提供できたか。	・学校の情報が分かると感じる保護者の割合が85%とする。 ・学校公開日、行事、授業参観での出席率を85%以上にする。	・学校だよりを随時発行すると共に、ホームページを着実に更新し、学校の情報を発信する。 ・学校公開や授業参観の広報を2度発信する。 ・緊急情報メールの受信率を95%以上にする。	A	保護者アンケートの結果では98%の保護者から評価をしていただいている。	土曜開校日を活用し、参観授業の内容を工夫し、来校者数を増やしていきたい。 情報伝達的手段として、学校情報メールの100%受信をめざしていきたい。
	○開かれた学校づくり2	地域の教育力を活用した充実した体験活動ができたか。	・地域の教育力を活かし継続的に取り組んでいくことで、体験活動の成果が上がっていると感じる保護者が90%以上とする。	・総合的な学習、生活科の年間計画に地域性を活かした体験活動を位置し、活動の様子をお便りや掲示板などで発信していく。 ・水と土づくり探検事業の実施。(全学年) ・岩松寺小屋と岩松検定の実施。野菜作り(1・2年 もも)羊羹作り(4年)ホタルの飼育体験(5年)	A	・子どもたちは、地域について見聞を広めることで、そのよさを実感したり、理解を深めたりしている。 ・回答していただいた保護者全員が「思う」「大体思う」と回答している。 ・お世話をさせていただく方々の専門的な説明を聞いたり、様々な体験活動を通して、地域のよさについて実感したり、理解を深めたりしている。	・各教科等との関連を見直し、次年度にいかしていきたい。 ・岩松寺子屋への参加者が限られているので、年間1回は参加するよう呼びかけていきたい。

② 確かな学力の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	児童の基礎学力が定着したか。	・全国、佐賀県学習状況調査(4～6年)における通過率が、本県平均と同等にあること。 ・CRT(1～3年)の結果が全国平均と同等にあること。	・スピーチタイムおよび算数タイムには級外職員も指導にかかわり、児童の「話す聞く」能力の向上と算数の基礎基本の習得を図る。 ・家庭学習の習慣化およびその内容を充実させるため、家庭学習強化週間を学期ごとに設定する。 ・学習にかかわる校内掲示を工夫する。 ・「岩松小学校学習スタンダード」の徹底を押し進める。	B	・5年生は、国語算数とも、4月調査に比べて5ポイント以上の伸びが見られた。6年生については、5ポイントには届かなかったが、4月からの伸びが見られ、また、県の平均も上回っている。 ・1～3年生のCRTでは、全国平均をやや下回る結果となった。 ・家庭学習時間は全学年で8割以上の児童が目標時間を上回った。 ・学習スタンダードは、4月に比べて全学級でその達成が進み、8項目中、半分以上の項目で達成が見られる学年がほとんどである。 ・高学年では学力の伸びが見られた。 ・全学年で、自分の考えを相手に話す力や、友だちの考えを聞きとめる力が育ってきている。 ・家庭学習時間について児童の意欲が高まり、学年の目標時間を意識して宿題などに取り組む様子が見られた。	・学力の伸びを全校的なものにしていく。そのために、学びあいの推進やICT活用などの工夫による分かりやすい授業を一層進める。 ・学級経営に留意し、落ち着いた教室環境づくりを一層進める。
	●教育の質の向上に向けた校内研究の推進	教職員の授業力は向上したか。	・児童の主体的な学びにつながる「学び合い活動」と「振り返り」の充実を図る。	・全体会での研究方針の共通理解 ・「学び合い活動」「振り返り」に力を入れた授業の実践	B	・9割以上の児童が、分かりやすく話すこと、友だちの考えと比べながら聞くことができていると感じている。しかし、友だちの考えを聞いて質問したり、意見を言ったりすることができている児童は7割以下である。 ・振り返りについては、2割の児童ができていないと感じており、教師も3割があまりできていないと答えている。 ・研究の1年目として、同じ方向に向かって進み出すことができた。 ・授業実践を行う中で、「学び合い活動」を活性化するための手立ての工夫がなされた。児童の聞くこと・話すことの基本的な態度・技能が身に付いてきて、深まり、広がりが見られるようになってきた。また、何について振り返るのか、観点を示すことによって、児童が自らの学び方について振り返ることができるようになってきた。	・話し合いの中で、友だちの考えを受けて質問や意見を言うことができるようにしたい。 ・振り返りを継続して行うことで児童が自らの成長を感じることができるようにし、主体的な学びへとつなげたい。
	○読書活動	読書活動の推進ができたか	・図書館と連携し、児童一人当たりの貸出数を150冊以上にする。	・読書ボランティアの読み聞かせの実施。 ・魅力ある図書館にするためのイベントなどの工夫。 ・本の紹介コーナーの掲示。 ・読書リレーの実施。	A	・学校評価アンケートの「図書館教育を中心に読書活動を推進する取り組みを行っていますか、成果が出ていると思いますか？」では、「思う・だいたい思う」と答えた割合が、91%だった。 ・年間の貸出数は、1月の時点で、一人当たりの累計が、平均178.45冊であり、目標の150冊をすでに到達している。・昨年度に比べると、1月の時点で、累計前年度対比126.3%であり、貸出数は増えている。 ・先生方の声かけやイベントに参加することで、図書館に足を運ぶ児童が増えた。また、ひまわりチケット(プラス1冊けん)やはなきんチケット(プラス2冊けん)をもらって、それを使って本を借りている児童が多い。	・「いい本みつけたよ」のコーナーが、あまり機能していなかったため、もっと活用できるように改善していきたい。 ・読書リレーを週末に行うことを意識づけさせ、徹底できるようにしていきたい。 ・たくさん借りる児童がいる反面、期限が過ぎても返却しない児童がいるため、クラスの貸出ができない時もあったので、声かけを徹底していきたい。

③ 豊かな心と健やかな体の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	●心の教育1	学ぶ喜びがあり、認め合い支え合う学級・学校づくりができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合を90%以上にする。 学校が楽しいと感じる子どもの割合を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回の生徒指導会において、児童の実態を把握し、指導方針を検討、共通理解した上で、児童が安心して過ごせる学習環境づくりに努める。 本年度は、①挨拶 ②言葉づかい(友達の名前に「さん」「くん」を付ける) ③室内での過ごし方 について重点的に指導する。 児童に出番や役割を与え承認していく機会を増やすことで、自己肯定感を高めながら支持的風土を醸成していく。(学級経営の充実) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで「学校が楽しい」の割合が9割以上 保護者アンケートで「子供が学校が楽しいと感じている」の割合が9割以上 教師アンケートで「認め合い支え合う学級作り・支持的風土の醸成に取り組んでいる」の割合が9割以上 QUテストの結果が、全学級、6月よりも12月のほうが良くなっている。(安定した学級になってきている。) 計画的かつ状況に応じて適宜手立てをとっていったことで、学校が楽しいと感じる児童の割合を9割以上にすることができた。 QUテストの結果から、すべての学級において、「友達関係」「学級の雰囲気」「学習意欲」の3項目が全国平均以上または全国平均並みであった。加えて、3項目のバランスがとれており、どの学級も安定した集団となっている。 	「さん」「くん」をつけて名前を呼ぶことや「ぼかぼか言葉」を積極的に使うことなどの定着が不十分であった。全職員が同じような基準をもって全児童の指導にあたっていくことで改善を図ってきたい。しっかりと定着するには、数年間かかると思われるが、粘り強く取り組んでいきたい。
	●心の教育2	自問清掃の取組を通して、児童の変容はみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> 自問清掃を頑張っていると感じている児童の割合を85%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内に自問掃除の掲示コーナーを設け、児童の掃除の様子を掲示し掃除に対する啓発を図り、自発性や自立心を図る。 がまん日記を書かせ、それを基に指導を続け定着させていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自問清掃のアンケートでは、92%ができていないと答えている。目標の85%を超えている。 自問清掃に対する意識を持つことで、毎日の掃除の取り組みがよくなり進んで掃除をする姿勢が身についてきた。また、掃除の後「がまん掃除日記」を書くことで反省に繋がり、自己反省にもなっていると思う。自問掃除継続することで落ち着いて掃除に取り組む姿勢が身についてきた。 	学期が進むにつれて、落ち着いて自問清掃が出来るようになってきた。担任不在の時でも自主的に自問清掃ができるようになって欲しい。今後も継続することで自分で考えて行動できる児童をめざしていきたい。自問日記については、担任が負担にならないようにする。子どもたちは継続して書かせるようにする。
	●心の教育3	全教科、全領域での道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合を90%以上にする。 学校が楽しいと感じる子どもの割合を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 別業を含む年間計画を見直し、全教科・全領域での道徳教育の推進を進め、道徳的実践力の育成を目指す。 道徳の時間「ふれあい道徳」(参観日での道徳の授業公開)の充実と「わたしたちの道徳」の活用を図る。 「〇月の心」やQ-Uテスト、教育相談週間において、児童の実態を把握し、必要な対応を探りながら進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合が96%で、目標を上回ることができた。 道徳についての研修会を行ったことで、道徳性を高めるためには内発的動機づけを行う必要があることを、全職員で共通理解することができた。 「ふれあい道徳」では、多くの保護者から感想を寄せていただいた。 	「ふれあい道徳」に保護者が参加できる形態になるよう探っていききたい。 「〇月のこころ」での実態把握を行うことができていない。質問紙法による児童の実態把握をどうするか検討していきたい。
	○特別活動	児童会活動の充実	児童会集会活動や代表委員会、委員会活動において、一人ひとりに出番、役割を分担し、進んで取り組むことができるようにする。	児童会集会活動や代表委員会、委員会活動で、児童(学級集団)が自主的に出番を作り、活動する機会を保障する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童が各自の仕事を責任をもって取り組み、達成感を得られるようになってきた。 子どもの見方や考えをいかした活動をもっと取り入れていきたい。 すこやかタイムでは、全委員会の委員会発表を計画的に行うことができた。また、どの委員会も工夫してわかりやすく発表することができた。 わんぱくタイムでは、上級生が下級生のお世話を率先して行ったり、仲良く遊びを楽しんだりする姿が見られた。 1年生を迎える会、運動会などの学校行事では、責任をもって役割を果たす姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や学校行事において、自分の見方や考えをいかして取り組むことができるように、目標を持たせ、振り返りをさせる。 わんぱくタイムの回数を増やし、相互理解を深めたい。 学級活動や学校行事などで、お互いに認め合えるような取り組みを行い、自己肯定感を持たせる。
	○特別支援教育	特別支援教育体制の確立と充実ができたか。	校内支援委員会等を通して、対象児童の共通理解を図り、よりよい支援体制づくりをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 校内教育支援委員会を設置し、状況に応じた校内支援体制をつくり、対象児童への支援を行う。 子どもの特性の理解と具体的な支援についての校内研修を実施する。 対象児童の個別の指導計画を確実に作成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する児童については、その都度、対応を考えてきた。 学校全体での支援体制についての共通理解は、まだ十分とはいえない。 担当者で相談しながら進めることができ、校内教育支援委員会を必要に応じて開くことができた。 校長先生、教頭先生、教務の先生にもアドバイスをいただき、対応することができた。 小城市支援センター、病院の先生、通級指導教室の担当の先生など、関係機関と連携をとりながら、児童についての情報交換を行い、支援にあたることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる児童については、保護者に現状を伝えるとともに、担任の先生と担当者との情報を密にして、保護者に情報を提供していき、保護者の考えを聞きながら、対応していく必要がある。 来年度入級する児童がスムーズにできるように、今年度のうちに準備をすすめておきたい。

●健康・体づくり①	規則正しい生活習慣の推進と健康な体作りができたか。	・睡眠時間の確保 (決められた時間に寝ている児童を60%以上に) する)・・・H28年度 よくできた◎ 第1回56% 第2回53% ・朝食喫食率及び食事の質の向上 (朝食を毎日食べる児童の割合を95%以上にする。)	・「生活習慣調査」により実態把握をし、適宜養護教諭、栄養教諭を中心に規則正しい生活習慣や食育に関する指導を推進する。 ・集計結果等をお便りとして発行したり、給食試食会で話をする場を設定したりして家庭との連携を図る。	B	2回行った生活習慣調査の結果、2回とも朝食喫食状況は目標の90%以上を達成することができた。また睡眠に関して、就寝時間は保護者へのお便りや委員会を活用した児童への呼びかけにより、1学期よりも1割以上改善したが、逆に決められた起床時間に起きられない児童が1割ほど増加したため、生活習慣調査を年間2回実施し、児童の実態把握ができた。その結果を保護者へお便りでお知らせし、児童玄関にも関連記事を掲示していただいたことで、家庭との連携につながったと考える。実際に、保護者の方から「子どもの生活習慣を振り返った」という声もあった。	高学年に上がるにつれ睡眠時間の確保ができていないので、起床時間とのバランスを取りながら、発達段階に応じた保健・食育指導を養護教諭と栄養教諭で連携し実施していきたい。また、家庭との連携をより充実させるため、お便りの発行回数を増やしたり、フリー参観などで直接、保護者へ働きかけたりする場を設定したい。
●健康・体づくり②	健康な体作りができたか。	全校児童の体力向上を目指す。特に、20mシャトルランの結果を向上させる。	・スポーツテストの実施方法や記録を伸ばすコツを目に見える形で提示する。 ・朝や業間の時間を使い、ラジオ体操やなわとび週間、マラソン週間を実施する。 ・3学期にマラソン大会を実施する。 ・5月と2月に20mシャトルランを実施し、伸びを分析する。	B	・昨年度から課題とされている、20mシャトルランのTスコアを学年別に見ていくと、1年生41、2年生56、3年生52、4年生51、5年生46、6年生57と、4学年で50を超えた。成果として、Tスコアに表れてきているが、まだ50に達していない学年もあるので、Bとした。 ・スポーツテストの結果を見ると、全学年それぞれ体力が上がってきている。特に、3年生、5年生の伸びが大きかった。 ・児童に企画をさせ、楽しく、体力をあげられる方法を探した。道具作りや会の進行など、児童は意欲的に取り組むことができた。	・インフルエンザが流行する前に、体を動かす習慣を身につけさせることが大切だと思うので、マラソン週間となわとび週間を設定する時期をもう一度考える必要があると思う。 ・ベストスポーツ委員会の発表で長縄をして見せ、楽しさを伝えたが、なかなか全校に広がらなかったのも、長縄大会などの設定を考えてもよいと思う。
●いじめ問題への対応	いじめのない学級づくりと教育相談体制の確立ができたか。	・いじめの発生しやすい空気を作らない。 ・児童一人一人の居場所を作り、自己肯定感を高める。	・人権教室で、それぞれの学年に応じた話やエンカウンターを、全職員で行う。 ・児童へのアンケートを学期1回行い、その後の教育相談に生かしながら、いじめの芽を小さいうちに摘む。	B	保護者アンケートで、「いじめ防止について成果が出ていると思うか」の項目で、「思う」「だいたい思う」を合わせると約84%で昨年度より増えている。 ・QUテストを見ても、満足度の高い児童がやや増えた。 ・全校で一貫して、徹底的にこぼれの暴力や無視、いやがらせなどを許さない態勢を作ったことで、いじめの芽を小さいうちにつむことができた。 ・日々の生活指導、児童会活動、人権集会、人権教室、道徳などいろいろな場面で、年間を通して、自己肯定感を高めたり、人のよい行いに目を向けさせたりすることができた。	・人権教育をととしてさらに人権感覚を高めた。い。(外部講師を招いたり、映画の上映をするなどして、いい生き方や考え方に触れさせたい) ・登校しぶりや不登校の児童が数名おり、学校になかなか足が向かない。学校内でのSCの活用というよりも、今まで以上に学校外のさまざまな機関(小城市支援センター、不登校支援教室「ほたる」、病院など)との連携が必要になってくるのではないだろうか。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策

4 本年度のまとめ・次年度の取組

①保護者アンケートに関しては、思う・大体思うをあわせるとほとんどの項目で80%を超えていることから学校への理解が得られていると考えられ、昨年よりはおおむね評価が上がっている。

②昨年度評価より今年度評価が上がったものは、3:開かれた学校づくり①、8:心の教育①、15:いじめ防止である。とくにいじめや心の教育等に関する取り組みが成果を上げていた。

③昨年度より評価が下がったのは、6:校内研究の推進であったが、初年度と言うこともあり取り組みが全教職員のものとならなかったことも数字が下がっている一因と思われる。

④次年度への課題としては、安心安全な学校・学級づくりを土台に学力向上につなげていくとともに、体力づくり等も継続してとりこんでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目